

5周年記念開設ページ

ごあいさつ



みなさま、こんにちは！ときわ駅前なかむら眼科院長の中村隆宏です。
当院のホームページをご覧くださいありがとうございます。
2018年10月1日、私の地元京都市右京区にときわ駅前なかむら眼科を開院させていただき、
気づけば5年の月日が過ぎました。
この5年を振り返り、全スタッフでひとつひとつ作り上げてきた当院の大切にしている理念・
特徴をお示しするとともに、
これまでの私の歩み、クリニックの歩みに関してまとめてみました。

当院の理念・特徴

①安心と信頼の追求

私たちは患者さまに“安心”して診療を受けていただき、京都で目のことならなかむら眼科にと“信頼”されるよう努めます

②患者さんやスタッフに優しいクリニックに

私たちはお互いに感謝の気持ちを忘れず、患者さまに優しく・温かみのある医療サービスを提供できるように努めます

③感謝と笑顔を大切にします

わたしたちは患者さまにもスタッフ同士も笑顔を決やさず感謝の気持ちを伝えるため、“ありがとうございます！”の合言葉の輪を広げるように努めます

④負担の少ない日帰り眼科手術の導入

手術室はHEPAフィルターを導入した清潔なクリーンルームを実現し、
患者さまの負担の少ない日帰り白内障手術、前眼部手術、硝子体注射を豊富な手術経験をもち院長自らが行います

⑤ドライアイ・眼精疲労・近視進行抑制・コンタクトレンズケアの対応

京都府立医大眼科においての長年の臨床経験をベースに、医療情報・医療技術を研究会等で常にアップデートし、患者さまの日常診療に届けられるように努めます

⑥眼科医療機器の導入

日進月歩の眼科医療機器の中で、**白内障、緑内障、網膜・眼底疾患**などの眼科一般臨床に効果が期待できる眼科医療機器を導入し、クリニックにおいても高い水準の眼科医療の提供に努めます



院長中村隆宏を知る(興味のある方だけ読んでください_(._.)_)



● ● 幼少時代～小学生時代 ● ●



大阪万博が開催された1970年11月14日(いい医師の日だそうです!)に京都市右京区で生まれました。難産の末の帝王切開で、母は出産後2-3日間は意識がなかったそうです。長男だったので、たくさん写真が実家に眠っています。幼少時代は絶えず動いていて、じっとしてなく、また乗り物が大好きだったそうです。両親が目を離した際に、西大路通りの真ん中までよたよたと出てきて、当時走っていた路面電車(市電)を止めた事もあるようです。ひかれなくて本当に良かったと思っています、..

小学生の時は、夏は広沢の池や有栖川などでセミ、バッタ、ザリガニやカブトムシなどをひたすら追いかけて、冬は田んぼでたこ揚げや草野球を満喫していたと記憶しています。クニックの名称にもあります、常盤駅近くには常盤野小学校があり、私も小学校時代に所属していました。常盤野少年剣道部が今も活動しているようです。正月は渡月橋の河川敷で正月稽古があったり、夏は清滝にあるアスレチックに行ったり、つらい&楽しい思い出がいっぱい詰まっています。

広沢の池



いつもアレルギー性鼻炎で鼻をたらしっぱなしで、また小児喘息もちで救急車に運ばれたことがあるなど、虚弱体質でありました。病院通いが多かった小学生時代でしたが、このころいつも通っていた近くの内科医院のドクターが、優しく包み込むような診察で、体調が悪いんだけど先生に会えるのを楽しみにしていた記憶があります(お菓子もくれたしアイスクリームも食べていいと母に言ってくれるし!)。こんなに人を安心させることのできる職業、お医者さんっていいなと子供心ながら思っていました。このころから将来医師になりたいと考えようになりました。

● ● 中高時代～浪人時代 ● ●



医師になるにはやはり勉強しなければと思い、小学校5年生ぐらいから近所にあった南郷塾に通いはじめました。現在の中学受験とは大変さは違いますが、なんとか猛勉強の末、憧れの洛星中学校に合格することができました。

中学時代はテニス部に所属し、朝練、昼練、休日も自主練とテニスづくめの毎日で、真っ黒だったと思います。中学高校時代を通して学んだことは、自分もそれなりに勉強してきたので、自信はあったのですが、入学してみると上には上がいる、プライドは木っ端みじんで、自分はできる人間ではないと痛感させられました。冷静に見つめる

と自分には平凡な才能しかないので、逆に努力するしかない!と考えていたと思います。このころの座右の銘は、"There is no royal road to learning(学問に王道なし)"でした。この言葉をいつも机の前に貼って勉強していました。この言葉に何回救われたことか、今の自分の礎を築いてくれたと思います。

サラリーマン家庭でしたので金銭的にも最難関の国立の医学部しか選択肢がなく、そうするとその当時の私の学力では現役では合格できず、1年間浪人生活を過ごしました。浪人時代はフレッシャーが本当にきつくて、1日平均15時間ぐらいマシンのように勉強していたと思います。総合大学に行きたく、京都から出たかったので、考えた末、第一志望の金沢大学医学部に合格することができました。

この浪人生活時代を、大学生になってからもよく夢に見てうなされました(PTSDか、)。ただ、この苦労があったからこそ、その後訪れる医師国家試験や、就職後医師として働く大変さは、浪人時代に比べたら比較にならないぐらい軽いものと考えることができ、いろんな課題や関門を乗り越えることができました。“苦労は若いうちは買ってでもせよ！”という意味を体現したと思います(今の時代には死語でしょうが、)。



祖父に医学部に進学する旨を報告した際に、“隆宏、稲穂の精神を忘れずに”とかけられた言葉が僕の胸の中にあります。“これから先、医師になってどんなキャリアを積もうと、どんなに偉くなろうと、上に行けば行くほど、頭を下げるんやで”、ということをお話してくれました。当時はあまり理解できていなかったと思いますが、今では本当にその通りやな、おじいちゃん、ありがとう！と言いたい気持ちです。

● ● 大学時代 ● ●



競技スキー部

親元をはじめて離れ一人暮らしを開始し、学生生活を本当に満喫しました。両親には申し訳ないですが、6年間一度もホームシックにかかったことはなく、勉強、部活、バイトの毎日でした。部活は小学校時代にやっていた剣道部と大学に入学して必ずやろうと思っていた競技スキー部を掛け持ちで入部しました。仕送りだけではなかなか大変だったので、夜は塾の講師や家庭教師のバイトをしていました。休日は友人と会場設営や工事現場の交通整理のバイトをしたのもいい思い出です。

大学4年生の時に競技スキー部のキャプテンを務めることになり、西日本の学生の大会で金沢大学が優勝できたのは一番の思い出です。その時感じたことですが、キャプテンに就任した際に急に孤独を感じるようになりました。人をまとめるポジションというのは、孤独との戦いであることを身に染みて学びました。その経験は、現在のクリニックの運営にも生かされていると思います。いずれにせよ6年間の学生生活を過ごした金沢は第二の心のふるさととなり、今でも家族を連れてよく訪れます。



北海道 自転車周遊

● ● 勤務医時代 ● ●

卒業後の進路について、何科に進むか悩みましたが、手術をして病気で苦しんでいる患者さんを自分の手で治したいという思いが強くなり心の中にありました。金沢、大阪、京都の大学をいろいろ見学している中で、たまたま高校時代の友人に相談した際に、京都府立医大の眼科に面白い先生が来たよと話してくれて、結果的に京都府立医大眼科に飛び込みで入职しました。この選択は結果的には僕の人生の中で一番のヒットだと思います。

研修医時代は、今でいう働き方改革などありませんので、朝早くから夜遅くまで馬車馬のように働きましたが、頼もしい一組の仲間がいて、尊敬できる教授をはじめ教室自体が活気に満ちていたため、幸いつらいと思うことは一度もありませんでした。



恩師である京都府立医科大学眼科 木下茂教授と

研修医時代は手術ができて患者さんを診られる一人前の臨床医になることしか考えていませんでしたが、恩師の先生方の導きもあって、臨床と研究の両輪をがんばることになりました。臨床現場では目の前の患者さんを救うことが可能ですが、自分で診れる患者さんの数には限りがあります。もし医学研究で新しい治療法や治療薬を開発できれば、何万もの患者さんを救うことができます。

大学院に入学して、難治性の眼疾患の治療法の開発をすすめ、

それを世界に発信することが自分の生きがいになっていました。活動の場は同志社大学、スイス ローザンヌ大学病院、神戸先端医療センター病院などの機会を得て、いつの間にか恩師が主宰します京都府立医大医科大学 感覚器未来医療学の准教授として奉職していました。



恩師であるスイス・ローザンヌ大学病院 Yann Barrandon教授と

◎ ● 人生の転機 開業を決意！ ● ◎

ちょうど私が47歳の時、働きだして22年が経ちました。医師として人生の折り返し地点に差し掛かっていた時、ふと今後の自分の人生を考えました。①このままアカデミックなポジションを求めて教授を目指すか、②関連病院に就職するか、③独立して開業するか、いろいろ考えました。

その中で、私は尊敬できる恩師とのいい出会いがあってその教室で頑張ってきた今があるだけで、教授になりたいために頑張ってきたわけではないので①は脱落、いろいろな人事やタイミングもあるので必ずしも②も思うようにならず、では全く自分の人生の中で想定していなかった③独立して開業するってどういうものなのか、一度調べて勉強してみようと考えました。

いろいろと模索していた中で、たまたま飛び込みで相談した現在の当院の顧問先に訪れたことがきっかけとなって、点と点が線となり、線と線が面となる運命的な出会いがあり、よし、地元右京区で開業しよう！と決意しました。その時は“神様が僕に開業しろと言っているな”と感じたほどでした。

◎ ● 現在の自分 ● ◎

ちょうど医師としてのキャリアは長くありますが、独立して開業すると、正直わからない事だらけでした。ただ、自分の人生をかけてこれから歩もうとしているのに、人任せではダメだと思い、いろいろなことを勉強しました。不動産の契約、クリニックの図面や内装、融資や申請関係、医療機器の準備や人材募集など、考える事は多種多様でしたが、浪人時代の苦勞に比べたら全然楽に感じ、むしろ楽しんで準備していたと思います。

幸い、サポートしていただけるよきアドバイザー、先輩・後輩、関連業者の皆様の多大なご協力を得て、2018年10月1日、ときわ駅前なかむら眼科を開院することができました。経営者としては1年生の気持ちを忘れず、ひとつひとつ課題を乗り越え、患者さまの信頼を得るため積み重ねていこうと思い、この5年間をすごしてきました。あっという間の5年間でしたが、開院当初は右も左もわからない新米院長にもかかわらず、何とかいくつものハードルを乗り越えることができたのも、これまで在籍してくれた全スタッフ、また温かく、当院を信頼して受診していただきました患者さまのおかげだと思えます。

今後もスタッフ、患者さま、関連のみなさまに感謝の気持ちを忘れず、
クリニックの最大の目標である、

“安心と信頼の追求”
”患者さんにスタッフに優しいクリニックに”
“感謝と笑顔を大切に”

を目指して、信頼できる全スタッフとともに、さらにまい進してきたいと思っております。

引き続き何卒よろしくお願いいたします。



ときわ駅前なかむら眼科 開院5周年記念パーティー